■正しくご使用ください

詳細については、取扱説明書(マニュアル)をご参照ください。
取扱説明書(マニュアル)はWebサイトよりダウンロードできます。

その他

- 電源投入時の過渡的状態(2s)を避けてご使用ください。
- 蒸気、ホコリなどの多い所での使用は避けてください。
- シンナーなどの有機溶剤や、水、油、油脂が直接かからないようにご注意ください。
- 種類にもよりますが、ラピッドスタート式や高周波点灯式の蛍光灯の光は、検出に影響を及ぼすことがありますので、直接入光しないようにご注意ください。

- 本装置を「PSDIモード」で使用するには、本装置と機械の間に適切な制御回路を構成する必要があります。詳細については、使用する国や地域の該当する規格、規制をご参照ください。
- 本装置を日本国内でプレス安全用として使用しないでください。日本国内で使用するプレス機械・シャー(紙断裁機)には**SF4B-□-01〈V2〉**をご使用ください。

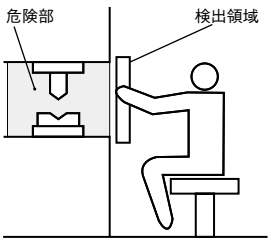
- このカタログは製品を選定していただくためのガイドであり、ご使用にあたっては必ず製品付属の取扱説明書をお読みください。
- 出荷時に投・受光器で調整してありますので、投光器と受光器は同じシリアルNo.の組み合わせでご使用ください。シリアルNo.は、投光器および受光器の銘板に表記されています。(型式名の下側)

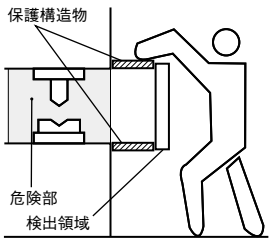
- 必ず、安全のため始業点検を行なってください。
- 本装置は非常停止装置により、動作サイクルの途中で急停止できない機械には、使用しないでください。

検出領域

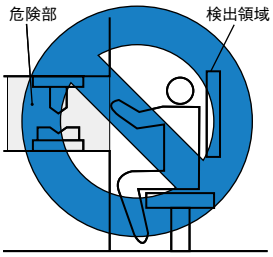
- 機械の危険部へ到達するには、必ず検出領域を通過する構造にしてください。また、機械の危険部で作業をする場合は、人体の一部もしくは全部が、検出領域内に残る構造にしてください。人体が検出されないと、死亡または重傷を負うおそれがあります。
- 反射型、回帰反射型の配置では、使用しないでください。
- 1つの投光器(受光器)に対向して複数の受光器(投光器)を接続することはできません。

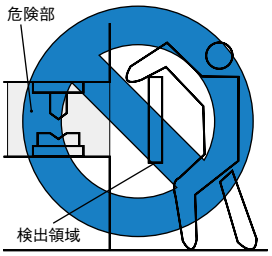
正しい検出領域の設定例





誤った検出領域の設定例



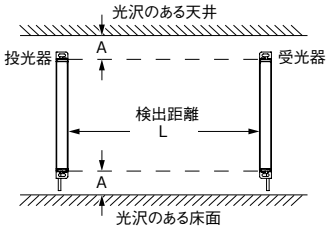


光沢面の影響

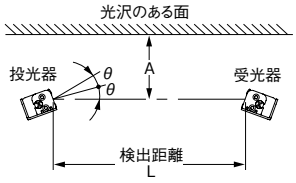
本装置を設置する場合、光沢面からの影響を考慮して設置するか、光沢面の塗装・マスキング・光沢面の目を粗くする・光沢面の材質の変更などの方法により、光沢面への対策を行なってください。光沢面の影響を考慮せず対策を行なわない場合、ライトカーテンが検出不能状態となり、死亡または重傷を負うおそれがあります。

- 金属製の壁、床、天井、ワークなどやカバー、パネル、ガラスなどの光沢面(光の反射率が高い面)から以下に示す距離A(m)以上離して本製品を設置してください。

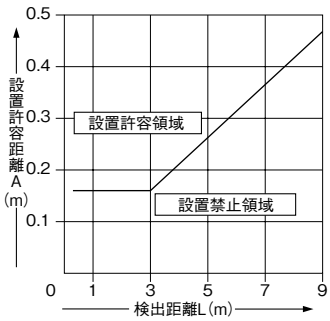
側面図



上面図



投光器と受光器間の距離(検出距離L)	設置許容距離A
0.3～3mのとき	0.16m
3～7mのとき	L/2×tan2θ θ=3° =L/2×0.105(m)



(注1):本装置の有効開口角θは、IEC 61496-2、ANSI/UL 61496-2により±2.5°(L>3mにて)以下ですが、取り付け時の光軸ズレなどを考慮し、有効開口角を±3°と想定して、光沢のある面から離して設置してください。

ハンディコントローラについて

本装置は、ハンディコントローラ**SFB-HC**(別売)を用いることにより各種機能設定が可能です。機能の中には、最小検出物体の大きさなど安全距離に関わる内容が変化するものがあります。各機能を設定する際には、安全距離の再計算を行ない安全距離以上の空間をあけて設置してください。充分な空間をあけていない場合は、機械の危険部に到達する前に機械が急停止せず、死亡または重傷を負うおそれがあります。

- ハンディコントローラ**SFB-HC**(別売)を用いる機能設定に関する詳細については、ハンディコントローラに付属の取扱説明書をご参照ください。